

板倉町との合併協議の 現状と今後について

篠木 正明 議員

質問 6月議会で、合併により行政サービスの安定的な提供または充実が可能なと答えていますが、合併協議会の資料によると、合併により財政が削減される額より、行政サービスを高いほうに合わせた経費のほうが上回っています。これでは、合併の効果として、

行政サービスの安定的な提供または充実が可能になるとは言えないのではないかと答えていますが、合併協議会の資料によると、合併により財政が削減される額より、行政サービスを高いほうに合わせた経費のほうが上回っています。これを整理され、さらに充実もできるかなと考えています。

質問 合併協議の現状はどうなっていますか。

答 約2年半の間に13回の合併協議会を開催し、52項目中29項目の合併協定項目が審議、決定されています。そして、第12回と第13回合併協議会では、市と町で住民サービスに大きな隔りがある事業の解決策について意見をいただいておりますが、事業の隔たりを埋めるまでには至っていません。また、懸案事項を調整するために、市長、町長等

による協議を重ねてきました。しかし、持続可能なまちづくりを行うという須藤市長の方針と住民サービスの低下はあり得ないという栗原町長の方針に違いがあるため、妥協案を見出すことが困難な状況です。

答 次の合併協議会で委員の考え方を伺いながら、方向性を検討したいと考えています。

質問 合併の効果はつきりしない。しかも、合併協議が行き詰った状況を打開する見通しが無い中で、このまま合併協議を続けるかどうか判断すべきだと思いますが、どう考えますか。

質問 合併協議の現状を説明し、合併協議を続けるべきか、やめるべきかも含めて市民の意見を聞くべきだと思えますが、住民説明会を開く考えはないのですか。

答 現状等を市民に説明して意見を伺うことは大切なことだと思えますが、現時点では住民説明会を開催する予定はありません。

答 現状等を市民に説明して意見を伺うことは大切なことだと思えますが、現時点では住民説明会を開催する予定はありません。

生涯現役ではつらつ笑顔で 暮らせるまちづくりについて

小林 信 議員

健康寿命延伸に交通手段を伸の取り組みが行われており、高齢者いきいきプランの中では、趣味の活動や介護予防活動に取り組む高齢者は増加傾向にある点を評価する一方、課題として、参加者が固定化する傾向にあり、活動に参加していな

一方の閉じこもり予防を指摘しています。こうした社会活動等へ参加するためには交通手段の確保が欠かせないわけですが、そうした条件づくりについてどのように考えていますか。

のようなときに生きがいを感じるのか」の問いでは、女性は友人や知人との食事・雑談、男性は趣味やスポーツに熱中などの回答が多く、「参加するための条件」では、自分自身が健康、活動する仲間がいる、活動場所が自宅から近い等を挙げています。「行政に望むこと」では、生涯学習講座、趣味のグループ等の情報提供の他に、交通手段の確保という項目もありました。高齢者の移動手段の確保に

については、社会全体で支えなければならぬ課題と認識しております。

質問 健康寿命が医療費の削減に予防に関する市町村トップセミナーで、東北大学大学院の辻一郎教授は「健康寿命が長い県ほど入院、外来ともに医療費が少なく」と特徴を分析し、「単に保健福祉だけでなく、高齢者の社会参加の機会、県民所得など社会経済的な政策も含め幅広い意味で健康寿命の

答 専門委員会では実施したアンケート調査では、「ど

健康寿命延伸の実証実験も

延伸を考えてほしい」と述べていますが、館林市としてどう進めていくのですか。

答 健康寿命延伸のために、経済や教育など幅広い視点から取り組んでいます。また、高齢者の外出を促す仕組み等も模索するとともに、今後交通と健康の実証実験など、健康寿命延伸プラットフォームのモデル事業として成り立つような形で、交通手段についても研究していきたいと思えます。